

3年次から選べる専門コース

環境イノベーション学部では、環境分野を中心に、多様な学問分野を複合的に学びます。社会変化を踏まえた環境問題に関する科学的知識を身につけると同時に、デジタル技術やデータサイエンスの活用に向けた基盤的な知識とスキルを獲得。その後、3年次以降は「環境創造コース」と「科学コミュニケーションコース」の2コースに分かれ、より専門的な知識・技術と解決力を身につけます。

未来の持続可能なグリーン・デジタル社会に向けて、環境創造コースでは、環境問題の解決に寄与する技術力、企画・設計力を、科学コミュニケーションコースでは、科学的根拠に基づいて環境問題解決に向けて共創する力を身につけます。

● 環境創造コース

専門知識と先端的な技術を融合させた
高度な開発力を養う

社会変化を踏まえた環境問題の解決に挑み、環境技術とデジタル技術を駆使して持続可能な未来社会を企画・設計できる人材が今まさに求められています。このコースでは、複雑化する課題に対応する高度な開発力を培い、これからのグリーン・デジタル社会を創造する人材を育成します。

■ 実感・実体験の学び

ゼロ・カーボン技術を取り入れた新校舎での学びや、「こもれびの森」での生態系観測など、キャンパス全体を実験フィールドとした、体験型の学修を展開。体験を通して、学んだ理論を現場で生かせるスキルへとつなげていきます。

各研究室の教員・学生による研究分野

- エネルギーマネジメント
- エネルギー・環境物理
- 環境プロセス
- 水環境
- 廃棄物リサイクル
- 環境システム
- 環境まちづくり・環境政策
- エコライフ・環境ビジネス

● 科学コミュニケーションコース

専門家の知識や技術を分かりやすく伝える
科学コミュニケーション能力を培う

先端技術を社会に実装するためには、企業や市民など活動主体となる多様な人々の理解を得ることが不可欠です。このコースでは、正しい環境知識とデータに基づいたコミュニケーションによって、グリーン・デジタル社会の実現に導く人材を育成します。

■ 実感・実体験の学び

充実したデータ解析環境や、コミュニケーション実践の場としてのサイエンスカフェをキャンパス内に設置。企業の方や地域住民をお招きし、実社会での活動を想定したリアルな学びの場を提供します。

各研究室の教員・学生による研究分野

- 環境アセスメント・環境共生
- 生物学
- 環境数理／プログラミング
- 環境DX
- 環境情報
- 環境心理／教育学
- メディア
- 科学コミュニケーション

実感と実体験にあふれた学び

■ 環境施設の調査実習



環境関連施設、環境配慮施設を訪れ、実際の現場で起こっている問題について調査を行うことで理解を深めます。

■ 経営者インタビュー

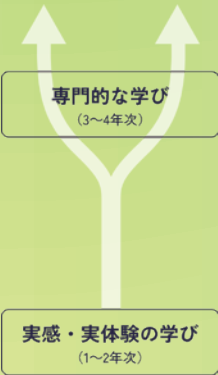


経営者に対して、企業経営における環境配慮への考え方や取り組みについてインタビューを行い、社会で求められる環境学について学びます。

こもれびの森でのフィールド実習



キャンパスのシンボル「こもれびの森」に出で観測や演習を行います。さらには校舎やキャンパス内で測定した環境データを授業に用いるなど、キャンパス全体が学びのフィールドとなります。



環境イノベーション学部の概要

学部名称	環境イノベーション学部	入学定員	140名
学科名称	環境イノベーション学科	初年度学費（予定）	1,690,000円
学位名称	学士（環境科学）	2年次以降学費（予定）	1,440,000円

教育研究上の目的

1. 人材の養成に関する目的

社会変化を踏まえた環境問題の解決、ひいては持続可能な社会の創造を実現するため、環境問題をシステム思考で捉え、グリーン・デジタルを活用した環境創造力と、その社会実装を促進する科学コミュニケーション力の両輪によってソリューションを提案し、イノベーションの創出に貢献できる「環境イノベーション力」を有した人材の育成を目指す。

2. 学生に修得させべき能力等の教育目標

環境イノベーション学部では、持続可能な社会の実現に貢献するため、学生に対し以下の能力を修得させることを教育目的とする。

- 環境問題に関する科学的知識を深く理解し、グリーン・デジタル社会の実現に資する環境創造と科学コミュニケーションを展開できる能力。
- 環境問題をシステムとして捉え、社会実装上の課題を定義し、解決策を提案できる柔軟な思考力・判断力。また、そのメリット・デメリットを活動主体となる多様な人々に分かりやすく伝えられる表現力。
- 環境問題に対する人々の認識の多様性を理解したうえで、対策の社会実装に向けて他者と協働し主体的に行動できる力。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

卒業の認定及び学位授与に関する方針に基づいて編成された教育を受けることができる者として、文系・理系を問わず、以下に記した知識・技能、思考力・判断力等の能力、態度を持つ者を受け入れる。

- (1) 社会変化を踏まえた環境問題の解決に貢献したいという意志を有する者。
- (2) 環境問題の解決に必要な論理的思考能力を高めたいという意志を有する者。
- (3) 幅広く学問横断的分野に対する関心を持ち、先端的な科学技術・デジタル技術によってその解決を図ろうという意志を有する者。
- (4) 幅広く学問横断的分野に対する関心を持ち、科学的根拠に基づいた科学コミュニケーションにより活動主体となる多様な人々の問題意識の変革を図ろうという意志を有する者。
- (5) 大学での修学に必要な基礎学力を有する者。

類似する他大学の学部・学科

東京都大学 環境学部 環境創生学科／麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科／日本大学 生物資源科学部 環境学科

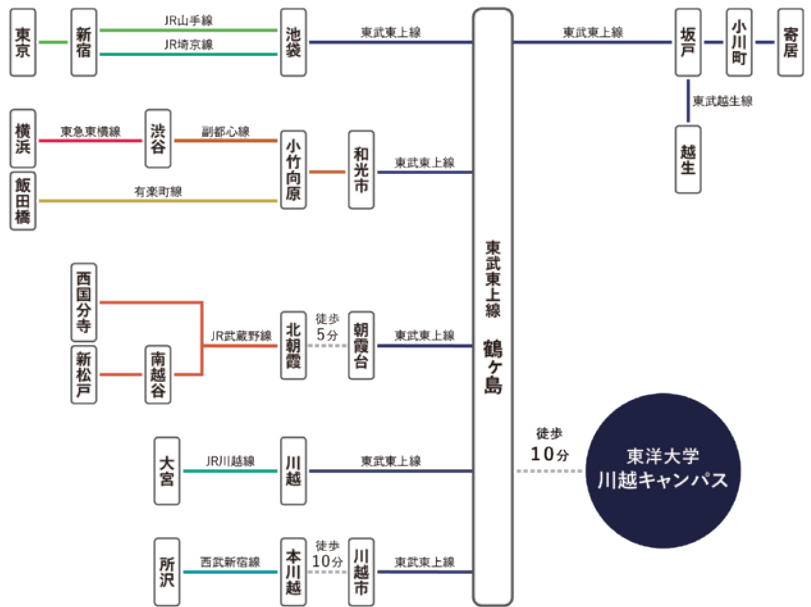
アクセス

東洋大学 川越キャンパス

〒350-8585
埼玉県川越市鯨井2100

東武東上線 鶴ヶ島駅より
徒歩10分

アクセスの詳細はこちら
<https://www.toyo.ac.jp/nyushi/about/campus/access/>



東洋大学

お問い合わせ

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100 TEL：049-239-1300（代表）

東洋大学

環境イノベーション学部

FACULTY OF ENVIRONMENTAL INNOVATION

2027年4月 川越キャンパスに開設予定※ 設置構想中

この地球が、 キミのフィールド

地球のこと、社会のこと、私たち人間を取り巻く
“環境”について考えよう



今まさに地球上で起きている環境問題を
“自分の視点で”考えるためのコラムを掲載中。
URL：<https://www.toyo.ac.jp/env/>



※本リーフレットは「学部開設に関するアンケート調査」および「人材需要等に関するアンケート調査」に回答する際の参考情報提供を目的としたものです。
※2025年8月現在、設置構想中。学部の名称は仮称であり、計画内容は変更となる場合があります。

環境イノベーション学部を知らう

2027年4月、社会変化を踏まえた環境問題の解決に向けた新たなインパクトの創出を探る「環境イノベーション学部」を開設します。

川越キャンパスを象徴する「こもれびの森」と調和した環境配慮型の新校舎や構内の豊かな自然環境を最大限に活用し、実感を伴った環境分野に関する総合的な学びを提供するとともに、デジタル技術やビッグデータの活用と実体験とを融合させたカリキュラムを展開します。

FEATURES 01

環境×デジタルの学びで 社会課題に挑む

テクノロジーの活用があらゆる分野で当たり前となった今、その力を最大限に生かし、地球温暖化対策など複雑化する環境問題の解決に役立てる策が模索されています。
本学部が目指すのは、環境対策に関する科学的知識やスキルの習得に加え、先進的なデジタル技術やデータ解析の手法を取り入れながら、テクノロジーの力で環境問題の解決に挑める「環境創造力」の習得。幅広い分野で活躍できる人材を育成し、“グリーン・デジタル社会”の実現に寄与します。



FEATURES 02

専門家と人々をつなぐ 科学コミュニケーション力を養う

環境問題の根本的な解決には、最先端の科学やデジタル技術を使いこなすだけでなく、社会一体となって取り組む姿勢が欠かせません。こうした中で重要性を増しているのが、専門家の知識や技術を分かりやすく伝え、企業や行政、関わりのある人々の理解と共感を引き出す「科学コミュニケーション力」です。本学部では、さまざまな関係者（ステークホルダー）との対話を重ねる中で協働・共創を実践できるカリキュラムを提供。専門家と人々をつなぐ懸け橋となる人材を育てます。



FEATURES 03

環境に配慮した 実感と実体験の学び

川越キャンパスの新校舎は、自然と調和したデザイン手法を基に、環境に配慮した先進的な技術を取り入れて設計しています。太陽光発電や地下水利用による創エネと、センサーなどを活用した省エネの両立により、エネルギー消費実質ゼロを目指す「ZEB (Net Zero Energy Building)」仕様を採用。さらに、地域住民や企業の方々と学生が直接交流できる「サイエンスカフェ」も常設されており、科学コミュニケーション力の向上も期待できます。実社会とつながりながら学ぶ、体験的で実践的な環境です。

『環境イノベーション学部』の特設サイトが7月24日にオープン
～環境問題を“自分の視点で”考えるためのコラムも公開中～

高校生や保護者の方に向けて、学部のプログラムから学びを通じて描けるキャリアまで、分かりやすくご紹介。さらに、今まさに地球上で起きている環境問題を“自分の視点”で考えるきっかけとなつてほしいという思いから、環境課題に関するコラムを掲載しています。

URL : <https://www.toyo.ac.jp/env/>



環境イノベーション学部の

Learning Journey MAP

－4年間の学びの旅－

社会変化を踏まえた環境問題の解決、ひいては持続可能な社会の創造を実現するため、環境問題をシステム思考で捉え、グリーン・デジタルを活用した環境創造力と、その社会実装を促進する科学コミュニケーション力の両輪によってソリューションを提案し、イノベーションの創出に貢献できる「環境イノベーション力」を有した人材の育成を目指します。



イノベーションの「種」をつかむ

「環境イノベーション概論」で、実現を目指すグリーン・デジタル社会の概観を学び、「実地研修Ⅰ」で環境インフラの現場を調査し社会実装に取り組む企業等の姿勢を実感する。ここで得た気づきを「環境のための化学 / 物理」「環境生活論」「都市環境実験」「サイエンスライティング」などの学びに還元する。

「芽」を育てる - イノベーションマインドの芽生え -

「実地研修Ⅱ」で環境問題に取り組む官民のリーダーから社会に求められる環境学を学び、自身の将来ビジョンを描く。「環境ビジネス論」「地理情報システム演習」「環境保全学」「環境分析学」などを通じて実際の課題解決につながる理論と実践知を獲得する。

「花」を咲かせる - イノベーションの実践 -

「インターンシップ」による現場実習を通じて、環境イノベーションを体現し、「環境シミュレーション演習」「環境まちづくり論」「コンテツ作成演習」などによる高度な学修とともに、環境技術、環境政策の社会実装に向けた実践的なスキルを習得する。

コース選択&研究室ゼミナール

環境創造コース
科学コミュニケーションコース

「実」を結ぶ - 多様な課題を解決するGXリーダーになる -

3年次秋以降に「環境政策学」やコースごとの特徴ある科目「環境創造 / 科学コミュニケーションコース演習」「地域エネルギー学」「環境市場調査」「環境心理学」などで専門性を磨き、さらには4年次の輪講、卒業研究 / 実習 / 制作を通じて、環境イノベーション学の集大成に取り組む。

多様なキャリアの実現

将来のキャリアを思い描こう

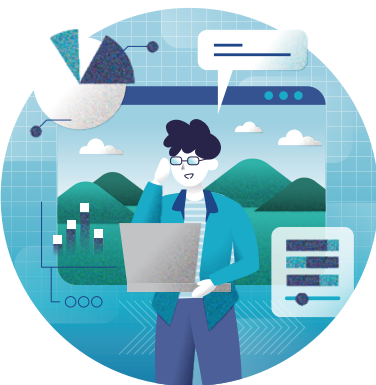
今、あらゆる業界、あらゆる企業・団体で「環境」の知識をもった人材が求められています。

本学部の学びは、将来どのような職業や進路に結び付いていくのでしょうか。具体的なキャリア例をご紹介します。



まちづくり×環境

建設業、不動産業、インフラ、行政など多くの業種が私たちの住環境や生活環境を支え、持続可能なまちづくりに貢献しています。



IT×環境

低炭素システムの構築や環境データ分析ツールの開発など、高い将来性が見込まれる「グリーンテック」が注目を集めています。



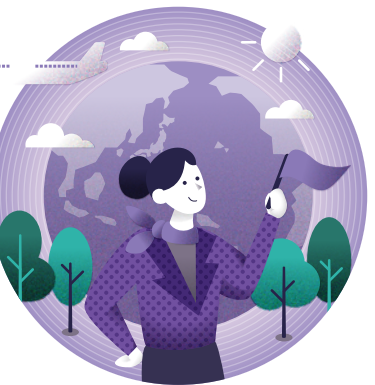
商社×環境

再生エネルギーの事業投資や、省エネ・創エネ製品の輸出入など、環境技術産業と市場をつなぐ役割を商社が担っています。



金融×環境

金融業界は、ESG投資などを通じた、よりよい環境づくりを推進する資金計画で、持続可能な社会の実現を後押ししています。



観光×環境

地域の自然・文化を伝え未来へ継承する観光「エコツーリズム」を意識したツアーの企画やプログラムの提供をしています。

取得可能な資格について

教育職員免許状

- 高校教諭1種(理科)
- 中学教諭1種(理科)

国家資格

- 技術士(環境部門、上下水道部門、衛生工学部門)
- 環境計量士
- 公害防止管理者(水質、大気)
- エネルギー管理士
- 情報処理技術者
- 環境アセスメント士
- 廃棄物処理施設技術管理者

学会・協会認定資格・検定等

- eco検定
- 脱炭素アドバイザー / GX検定
- 下水道検定